

第13回

ひろしま 山の日 県民の集い の記録

山と海は、つながっている。

2014年5月31日(土)・6月1日(日)開催

ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会/中国新聞社/中国放送

はじめに

広島は里山の国と言ってもいいでしょう。広島の里山は、里、川、まち、そして海ともつながり、多くの恵みをもたらし、命をはぐくんでいます。人とひと、人と里山、里とまち、企業と地域・・・安芸太田町をメイン会場に広島県内 12 市町 14 の会場を結んで、13 回目のひろしま「山の日」県民の集いを開催いたしました。これは、その記録です。

●第 13 回ひろしま「山の日」県民の集い 「山の日」宣言

広島県の面積のおよそ 7 割は山です。全国に誇る里山があります。
山から湧き出る水は命の源であり、その水が里の稲や野菜を育てています。
山を被う緑の木や草は、新鮮な空気をつくりだしています。
広島の豊かな山で生まれた水は豊かな川となり
瀬戸内海や日本海へ注ぎ、魚や貝を育てています。
私たちは、6 月の第一日曜日を「山の日」とし
ひろしま「山の日」県民の集いを、県内各地で開催し山の大切さを訴えています。
ひろしまの里山から、山の大切さを理解し行動する人の輪を広げ、
山がよくなる運動にしていくことを宣言します。

2014 年 6 月 1 日
ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会
会長 伊藤利彦

目次

1 事業のアウトライン	2
2 記念行事の記録	3
3 各会場の記録	
① 安芸太田町会場: 深入山グリーンシャワー	5
② 東広島市会場: 東広島市憩いの森公園	15
③ 廿日市市会場: 県立もみのき森林公園	22
④ 広島市会場: 広島市森林公園	24
⑤ 広島市会場: 広島県緑化センター	28
⑥ 三原市会場: 県立中央森林公園	32
⑦ 庄原市会場: 板橋さとやま学びの森	37
⑧ 福山市会場: ふくやまふれ愛ランド	39
⑨ 三次市会場: 酒屋地区憩いの森他	40
⑩ 呉市会場: 野呂山	42
⑪ 北広島町八幡高原会場: 八幡高原	44
⑫ 尾道市会場: 尾道ふれあいの里	47
⑬ 安芸高田市会場: 神楽門前湯治村	49
4 実行委員	50

事業のアウトライン

1 目的	<p>森林ボランティアや民間が中心となり展開してきた、ひろしま「山の日」県民の集いも 13 回目となる。目標の一つとしてきた、「山の日」も平成 28 年 8 月 11 日より国民の祝日になることになった。このような動きにも合わせ、将来、広島県内 23 市町で展開できるように広島県など行政も加わった県民参加の森づくり運動として展開し、多くの県民が、身近な山へ入るきっかけをつくることを狙いにする。</p>
2 日時	<p>2014 年 5 月 31 日(土) 「山の日」を考える広島会議、映画「森聞き」上映 2014 年 6 月 1 日(日) 集いの行事 ※北広島市八幡会場は 5/31・6/1、庄原市会場は 6/8 に実施</p>
3 場所	<p>広島県内 12 市町 14 会場 安芸太田町会場(川・森・文化・交流センター、深入山グリーンシャワー) 東広島市会場(東広島市憩いの森公園)、廿日市市会場(県立もみのき森林公園) 広島市会場(広島市森林公園、広島県緑化センター)、三原市会場(県立中央森林公園) 庄原市会場(板橋さとやま学びの森)、福山市会場(ふくやまふれ愛ランド) 三次市会場(酒屋地区憩いの森)、呉市会場(野呂山)、尾道市会場(尾道ふれあいの里) 安芸高田市会場(神楽門前湯治村)、北広島町八幡高原会場(八幡高原)</p>
4 総参加者	約9,000人 (山の手入れ等参加者 約1,050人)
5 主催	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、中国新聞社、中国放送
6 特別協力	ひろしまの森林づくりフォーラム
7 後援	<p>林野庁近畿中国森林整備局、広島県、広島県教育委員会、広島市、呉市、福山市、三原市、尾道市、三次市、庄原市、東広島市、廿日市市、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、(公社)国土緑化推進機構、(公社)広島県みどり推進機構、(一社)広島県森林協会、広島県森林組合連合会、ひろしま緑づくりインフォメーションセンター、(一社)広島県山岳連盟、(公社)日本山岳会広島支部、全国「山の日」協議会、NHK広島放送局、広島テレビ放送、広島ホームテレビ、テレビ新広島</p>
8 協賛	<p>西条・山と水の環境機構、(株)ウッドワン、山陽乳業(株)、JA グループ広島、(株)タカキベーカーリー、大和重工(株)、中国木材(株)、(株)中電工、マツダ(株)、広島県協同組合連絡協議会、広島信用金庫、広島県信用組合、広島県森林組合連合会、(株)エディオン、(一社)広島県造園建設業協会、尾道商工会議所、神沢精工(株)、クニヒロ(株)、(株)こうこく、光和物産(株)、山陽工業(株)、しまなみ信用金庫、田中電機工業(株)、西日本旅客鉄道(株)広島支社三原地域鉄道部、(株)パブリックス、東広島商工会議所、日の丸産業(株)、ひろしま NPO センター、広島商工会議所、広島市漁業協同組合、(株)広島バスセンター、福山商工会議所、(株)不二ビルサービス福山支店、みずえ緑地(株)、(株)ユアーズ、(株)有斐園、森信建設(株)、ゆあーず「食」未来研究所</p>
9 助成	<p>ひろしまの森づくり県民税 助成事業 「緑の募金」助成事業 セブン-イレブン記念財団 2014 年度活動助成</p>

「山の日」を考える広島会議

■参加人数：30人

■担当：実行委員会、安芸太田町会場実行委員会

■日時：5月31日（土）13:30～15:20

■会場：川・森・文化・交流センター エコ学習室

＜プログラムの状況＞

「山の日」が国民の祝日として平成28年8月11日から施行されることが決まり、広島県ではどのように活動を盛り上げていくかを議論する会議となりました。会議の話題提供者は山、森林に知見の深い6人の方々に安芸太田町実行委員会長の加計正弘氏もその1人として林業の歴史と現況そして林業の新たな道の模索について提供されました。

その後の討論会において、自然を満喫し、山林に関わり、その自然の恩恵に感謝することが肝要であると意見が一致し、内容の充実した貴重な会議となりました。



▲ゲストも招き、これからに向けて意見交換

「山の日」を考える広島会議を終えて

中越信和（広島大学大学院国際協力研究科 教授）



第13回ひろしま「山の日」県民の集いが安芸太田町をメイン会場として開催されるに当たり、前日の5月31日に記念行事として「山の日」を考える広島会議が開催された。すでに「山の日」が国民の祝日として平成28年8月11日から施行されることが決まり、広島ではどのように活動を盛り上げていくかを議論する目的であった。会議の話題提供者は本件に知見の深い6名の方々に、私はコーディネーターを務めた。場所は安芸太田町加計の川・森・文化・交流センターで、時間は午後1時半から3時半までであった。提供された話題の重さに対して時間不足の感があった。

まず、前垣壽男氏（ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会副会長）が東広島市から始まったひろしま「山の日」の発展が、森林再生を目的にその原動力を「民」とし官学民の連携が形成され、安定を産んだと報告した。加計正弘氏（同実行委員長）から地元広島での林業の歴史と現況が述べられ、林業の新たな道の模索が開始されたことが告げられた。鶴見武道（えひめ千年の森をつくる会代表）は四国全県で「山の日」活動の展開は、協働してきた林野庁から独立した活動計画が必要である現況が報告された。中川俊直氏（衆議院議員）は制定（今年4月2日公布）を主幹した「水循環基本法」の骨子と「水の日」が8月1日に制定され、山の日と連動して流域の水が国民の財産であることを力説。磯野剛太氏（全国「山の日」協議会事務局長）は国政における「山の日」制定までの尽力を語り、山の日を「山岳者の日」ととどめず多様な機能を持つ祝日としたい旨、提案。最後に多年にわたり「山の日・森の日」

を精査してきた市川貴大氏（とちぎ農林倶楽部部長）から、山の日の制定前後の一般人の意識調査から本祝日は森林に関与する日と定義するのが多勢であることが解説された。

その後行われたパネル討論で、国民が水（淡水）を意識して陸域の自然を満喫し、山林に関わり、その自然の恩恵に感謝することが肝要であると意見が一致した。内容の充実した貴重な会議であった。有意義な役を務めさせて頂き、実行委員会に感謝している。

山の日の夕べ 映画「森聞き」上映

■参加人数：70人

■担当：安芸太田町会場実行委員会、実行委員会

■日時：5月31日（土）15:30～18:00

■会場：川・森・文化・交流センター

やまびこホール

<プログラムの状況>

開会に際して、主催者側のあいさつではなく、地元安芸太田町に古くから伝わる「木挽き唄」から始まったことで、唄い手の川本さんの歌声、雰囲気により会場がなごやかなうちに映画が始まったことは良かったと思う。60才代以降の木挽き唄に親しみのある観客は懐かしさ、初めて聞く年代の観客には新鮮な印象を与えることができる内容であった。



▲「細見木挽き歌」を披露する川本泰竹（ひろたけ）さん

■感想

・映画鑑賞の前まで、「森聞き」はドキュメンタリー映画ということもあり、現在公開中の「Wood Job」と比較すると、堅苦しくておもしろくなさそうな映

画で、あまり期待できないという印象があった。見始めると、つくりものではない、本物の「声」と「映像」に触れることができたと思うし、作り手側の「日本の大切な伝統と文化を、どう後世に継承していくか。」の命題を達成するための真剣な取り組みや姿勢が伝わってきて、見終わった後感動を覚えた。

・子どもたちは必要以上にカメラを意識することもなく、彼らにとっては「宇宙人」のような別世界に暮らす名人（この名人は、子どもたちは宇宙人かおもしれないが。）の元に飛び込んでいく姿は、仕事上困難にぶち当たった時の自分自身の取り組み姿勢についても考えさせられた。

・ドキュメンタリー映画ということで、作った感がなく、事実をおおげさにするでもなく淡々と描かれている。かえってそのことが、現在の林業が直面している事実をストレートに表現されていて、心に突き刺さった。特に意気込んで森聞きに行く高校生が、事実と直面し圧倒されて何も言えなくなるシーンが、今も印象深い。

・途中、方言の部分も多く、何を言っておられるのかわからないところもあった。あえて字幕がないのは、その人の言葉一語一語を大切に聞き取ろうとするので、心に訴えかけるにはいいかもしれないが、内容を理解できないので、字幕はあった方がいいように思う。



■映画 「森聞き」

監督 柴田昌平

製作・配給 プロダクション・エイシア

協力 第7回森の「聞き書き甲子園」実行委員会

助成 文化芸術振興費補助金

全体

■参加人数：400人

＜プログラムの状況＞

6月の第1日曜日はひろしま「山の日」。2002年から森林ボランティアや山岳関係者が中心となって始まり、開催市町の協力も得ながら続けられてきたこの運動も今年で13回目となります。会場を1年に1ヶ所ずつ増やし、賛同された団体等の持ち込み企画で運営する方式は広島ならではの方式として定着をし始めています。

今年のメイン会場となった安芸太田町深入山グリーンシャワー会場で、6月に入り深緑の季節を迎え快晴の天候のもと、小鳥のさえずりと澄んだ空気の中でイベントが行われました。

深入山登山口周辺の里山の手入れ、薪割り体験、深入山ハイキング、記念育樹、木製ラックの製作体験、森林インストラクターによる自然散策、森のネイチャーゲーム、しいたけ菌打ち体験、里山の恵みバザー、伝統工芸品の実演、お楽しみ抽選会、恐羅漢山など5コースで森林セラピー体験、たたら歴史コーナーのほか森林、林業の取組みを啓発するコーナーなどのプログラムがそれぞれの団体により運営されました。

深入山山麓の素晴らしい景観のもとで子どもたちや家族連れなど約400が参加、森林と人との関わりや森林資源の活用についても触れ、感じていただいた集いになりました。

事業にあたっては、ひろしまの森づくり県民税、緑の募金、および企業・団体・有志等、たくさんの方々からの協賛により行うことができました。この場をかりまして厚くお礼申し上げます。



▲安全祈願セレモニー

開会式（オープニングセレモニー）

■参加人数：350人

＜プログラムの状況＞

快晴のもと深入山グリーンシャワーの特設ステージ前に参加者が整列するなか、加計正弘安芸太田会場実行委員長の開会宣言で「山の日」県民の集いが開会しました。

伊藤利彦会長が挨拶のなかで8月11日を国民の休日とすることが決定し、平成28年から施行されることを報告。中下善昭広島県副知事、小坂町長の祝辞の後、平成26年度広島県緑化功労賞の贈呈式が行われ安芸太田町安野地区で長年緑化活動をされてきた「船来親和会」と府中市の「年輪クラブ」に賞状が贈呈されました。

「山の日宣言」では筒賀小学校緑の少年団の4人がひろしまの里山から、山の大切さを理解し行動する人の輪を拡げ、山がよくなる運動にしていく」と力強く宣言し、安全祈願をして里山の手入れなどのイベントでの体験が始まりました。

なお、会場に設置した特設ステージは太田川森林組合が地域産材を使用して製作した素晴らしい舞台でした。司会はフリーアナウンサーの山原玲子さん。長年アナウンサーとして活躍された経験をもとに楽しいトークで司会いただき、参加者の絆が深まる和やかな雰囲気となりました。



▲深入山麓で開会 伊藤会長挨拶

里山の手入れ

■参加人数：56人

■担当グループ：安芸太田町林業研究グループ、
松原自治会、安芸太田町商工観光課、安芸太田町
産業振興課

＜プログラムの状況＞

第13回ひろしま「山の日」県民の集い安芸太田町会場のプログラムを代表する『里山の手入れ』では、深入山山麓の草原美を守っていくために登山道周辺の雑木の伐採を行いました。

当日は晴天に恵まれ、さわやかな初夏の風の中、参加いただいた方々は汗を流しながら作業に励んでくださいました。

安全に作業を行っていただくための説明のあと作業に取りかかっていたいただきました。

手ノコ、ヘルメットは実行委員会では準備しました。



▲加計実行委員長の開会宣言



▲「山の日」宣言をする、筒賀小学校緑の少年団の4人



▲深入山山麓で伐木の伐採作業をする参加者たち

森林セラピー体験

■参加人数：50人

■担当グループ：安芸太田町ヘルスツーリズム推進協議会、安芸太田町商工観光課

○案内人：あきおおた里山ガイド

＜プログラムの状況＞

- ①龍頭峡セラピーロード…14人
- ②三段峡セラピーロード黒淵コース…9人
- ③三段峡セラピーロード猿飛コース…9人
- ④恐羅漢セラピーロード…12人
- ⑤深入山セラピーロードプチ体験…6人

森林セラピー基地オープナー周年記念事業として共同開催とさせていただきます。森林セラピー体験者募集チラシを推進協議会で1万部作成し町内外へ配布しました。当日は、4つのロードで事前申し込みを受けた森林セラピー体験と、深入山で当日受付のセラピープチ体験を実施しました。また、メイン会場では森林セラピーPRのためのブースを設けて、「人を癒す」という山の持つ新たな魅力について森林セラピー基地安芸太田町ならではのPRを行いました。



▲5つのコースで、森林セラピー体験

初心者のための深入山ハイキング

■参加人数：14人

■担当グループ：広島県山岳連盟

＜プログラムの状況＞

広島県山岳連盟は快晴に恵まれた安芸太田町会場で、開会式に参加した後、初心者のための深入山ハイキングを14人が参加して行いました。

開会式後の9時40分に深入山南登山口の広場に集合して、広島県山岳連盟の京才会長の挨拶、計画説明・注意事項・講師紹介・ストレッチを行ない、林間コースから山頂へ向いました。

途中で、休憩を兼ねて地図の必要性和見方や山での歩き方を説明し途中の東屋・水場・展望岩で休憩しながらゆっくり登り、山頂直下の東屋で昼食。食後は、福永さんから差入れの冷やしたゼリーを全員で頂き、ワンポイントレッスンで山岳指導員が登山装備とパッキングの仕方を、現物を見せながら説明しました。

山頂では360度の展望を楽しみ、山座同定をして記念撮影後、南登山ルートを下山しました。下山後は、健康確認・ストレッチ・代表者挨拶して解散しました。

記録者：野島信隆（広島県山岳連盟 副会長）

森のネイチャーゲーム

■参加人数：19人

■担当グループ：広島県シェアリングネイチャー協会

○指導者：3人（上田・末田・向井）

＜プログラムの状況＞

早朝からの受付では、参加者の姿も少ないこととあわせ、子どもたちの姿がなく、不安がありました。お昼前あたりから少しずつ参加者も見られるようになり、少し安心しました。

ネイチャーゲームは、「森の色合わせ」を中心に、子どもたちが飽きないようにプログラムを進め午前中では、11人、午後8人の参加がありました。



▲レッスンを受けながら、深入山のハイキング



▲「森の色合わせ」のゲームを楽しむ家族連れ

記念植樹

■参加人数：30人

■担当グループ：太田川森林組合、安芸太田町地域づくり課、安芸太田町産業振興課

＜プログラムの状況＞

開会式終了後、参加者30人は徒歩1分の深入山グリーンシャワーグラウンド周辺へ移動しました。太田川森林組合職員による作業方法の説明の後、筒賀小学校緑の少年団4人と来賓、一般参加者により、樹木を末長く守り育てていく取り組みとして記念育樹を行いました。育樹の内容は樹木の周囲にあらかじめ穴をほっておき、その穴に各自で固型肥料をいれて、砂で埋め戻す作業を行っていただきました。

皆さんの育樹作業により、ますます元気に生育してくれることを願っています。



▲約30人が参加して記念育樹

木工体験（マガジンラック）

■参加人数：100人

■担当グループ：温井工芸センター、太田川上流漁業協同組合、広島県林業普及協会、安芸太田町産業振興課

＜プログラムの状況＞

実行委員会で木製ラックのキットを用意し、太田川森林組合職員の指導により作製しました。特に釘を打ち込む際には皆さん真剣で、仕上げのペーパーがけを行いその出来栄えに満足されていました。今回のキットは地元の間伐材（スギ）を利用し、有効利用と木製品良さを再発見していただける内容でした。



▲マガジンラックの組み立て

シイタケ菌打ち体験

■参加人数：120人

■担当グループ：太田川森林組合、三段峡漁業協同組合

＜プログラムの状況＞

実行委員会で椎茸のほだ木を用意し、ドリルで穴を開けて菌を一つひとつ丁寧に打ち込みました。菌を打ち込む「コン、コン、コン」というリズムのいい響きと共に、楽しみながら作業をされました。

植菌後の管理方法について説明し、各自持ち帰っていただき、来年の秋あたり立派な椎茸が顔を見せてくれることを願っています。



▲子どもたちもシイタケ菌打ち体験

森林インストラクターによる自然散策

■参加人数：41人

■担当グループ：全国森林インストラクター協会広島県支部、安芸太田町地域づくり課

○指導者：4人（野田圭一・櫻井潤一・長井稔・横田登美子）

＜プログラムの状況＞

参加人数が多いため、2班に分かれて実施しました。（1班：野田・横田、2班：櫻井・長井）

10時出発、12時現地解散。コースは、いこいの村駐車場から深入峠にむけて、旧国道沿いに散策しました。

キンラン、タンナサワフタギ、フタリシズカ、モリイバラ等の花を確認。樹木、草本、鳥等の特徴や、人との関わりあいを説明し散策を楽しんでいただきました。



▲森林インストラクターと樹木、草木、鳥等を観察しながら散策

里山の恵み バザー・展示

■担当グループ：安芸太田町食生活改善推進協議会、松原自治会

＜プログラムの状況＞

里山の恵みバザーでは、地元の材料を使った『炊き込みご飯』と『うどん』を用意し、中には2食目を食べられる方もあり大好評でした。



▲地元の素材で「炊き込みご飯」など

薪割り体験

■参加人数：20人

■担当グループ：上田吹自治会、安芸太田町産業振興課

＜プログラムの状況＞

実行委員会でナラの木を用意し、安芸太田町上田吹自治会の皆さんによる指導のもと、薪割機による薪割り体験を行い、希望者には薪を持ち帰っていただきました。

参加された方は、薪の適度な大きさや、木の種類について質問され熱心に取り組んでおられました。

里山の雑木を薪に利用し、薪ストーブなどの木質バイオマスの取組みについて関心を深めることができるプログラムでした。



▲薪割りに挑戦

伝統工芸士実演コーナー

■担当グループ：横畑工芸

＜プログラムの状況＞

地域に伝わる伝統工芸品『戸河内刳物』 安芸の木杓子 横畑工芸の実演を行いました。

戸河内刳物の起源は宮島細工にあり、江戸時代後期からの歴史があり、ノミ、鉋（カンナ）などによる手作りの作業を見学できる数少ない機会となりました。当日は山や木に関心のある方も多く、材料となる木の種類や、削り方、刃物の製作について熱心に質問される方もおられました。



▲伝わる手わざ 戸河内刳物

たたら歴史コーナー

■担当グループ：日新林業株式会社、安芸太田町生涯学習課

＜プログラムの状況＞

安芸太田町のたたら製鉄の歴史について、パネル展示等により、知識を深めていただきました。

特に芸州隅屋鉄山絵巻のレプリカは当時の製鉄作業の風景が描かれたもので、先人がどのようにして鉄を作り上げてきたのか、みなさん興味深く見学されていました。

紙芝居をDVD化した映像の放映も行いました。



▲盛んだったこの地域のたたら製鉄の歴史等を展示

お楽しみ抽選会

■参加人数：300人

■担当グループ：安芸太田町商工会、安芸太田町観光協会

＜プログラムの状況＞

第13回ひろしま「山の日」県民の集い安芸太田町会場に参加された方に、町の特産品や観光地を紹介することにより、再度町を訪れてもらうことを目的として、イベントの最終としてお楽しみ抽選会を行い、地元産品をプレゼントしました。

- 日本棚田百選「井仁の棚田米」
- 戸河内削り物「木工品」
- 温井工芸「木製神楽時計」
- しいたけ原木など



▲お楽しみ抽選会の様子

普及啓発コーナー

■展示内容：生物多様性コーナー・みどり推進機構コーナー・森林協会コーナー・山の日コーナー・ひろしまの森づくりコーナー・温井工芸コーナー

■担当グループ：太田川流域森林整備センター、西部地区素材生産者協議会他

＜プログラムの状況＞

「山の日」県民の集いイベントに合わせ、森林、林業や野生生物に関係するパネル、パンフレットにより普及啓発を行いました。温井工芸コーナーでは、木板に絵や文字を彫り込むレーザー印刷機の実演と木工品の販売を行いました。



▲森や山に関わる、各団体等の展示

受付コーナー

■担当グループ：女性連合会、産業振興課 ＜プログラムの状況＞

第13回ひろしま「山の日」県民の集い安芸太田会場は、これまでになく多くのプログラムを用意させていただきました。プログラムによっては事前受付、当日受付や定員もありスムーズに受付を進行させるため、プログラムごとに担当者を配置し、担当していただいた方の連携した対応により円滑に進めることができました。



▲受付は、町内の女性連合会が担当

閉会式

■参加人数：200人 ＜プログラムの状況＞

佐々木徹副実行委員長が閉会の挨拶をして第13回ひろしま「山の日」県民の集いが閉会しました。閉会行事は、広島大学大学院教授中越信和さんの講評と全国「山の日」制定協議会事務局長磯野剛太さん感想のコメントがあった後、次回メイン会場開催予定地の大竹市大原副市長へ加計正弘実行委員長から「山の日」フラッグが手渡され、すべての行事を終了しました。



▲閉会の挨拶 佐々木徹副実行委員長



▲山の日フラッグ、大竹市代表者へ

全体

■参加人数：600人

＜プログラム状況＞

平成28年から8月11日が祝日「山の日」となる法案が成立して間もない、6月1日。今年のひろしま「山の日」県民の集いは安芸太田町をメイン会場に県内12市町14会場で開催されました。

昨年とは打って変わって数日前から晴天が続き、前日の会場設営は季節外れの暑さの中、水分補給を欠かすことができず休み休み行いました。6月1日も晴天に恵まれ、開会式では来賓のご祝辞をいただき、皆さま「山の日」制定と山の日運動、それと森づくり県民税の有用性についてお話いただきました。いつもにも増して元気なみどりの少年団の山の日宣言、安全祈願セレモニー「どんぐり、ころころ」を行い、参加者の大半が山へと向かっていきました。

午後、気温もぐんぐん上昇し、山の手入れ作業は早めに切り上げ、午前中は広場でいろいろな体験プログラムを楽しんでいた親子連れも徐々に見えなくなり、午後の「森の野鳥観察」「森のネイチャーゲーム」は統合して実施するなどの工夫も見られました。という訳で、暑さに参りながらも大きなケガや熱中症もなく集いを終えることができたことが今回の成果かもしれません。



▲開会挨拶 島 靖英 実行委員長



▲祝辞 森光俊樹広島県東広島農林事業所長（左）、
前藤英文東広島市産業部長（右）



▲東広島みどりの少年団男女キャプテンによる山の日宣言（団長とともに）



記録者：船本 昌義（東広島市会場 事務局長）

山のグラウンドワーク

■参加人数：290人

<プログラム状況>

今回は、昨年雨で手入れができなかった「野鳥の森」を300人近い人数で除伐や下草刈り、除伐材のチップ化といった手入れ作業を晴天の天気の中、行いました。今回は、小学生以下のお子さんと参加された親子の班を一つ設定しノコギリの使い方など基本的な作業についての指導を別に行うと同時に服装や安全対策につながるアンケートも実施しました。

陽射しの少ないヒノキ林の奥での作業でしたが、気温上昇とともに疲れも見え、早めに作業を切り上げましたが、予定のエリアの手入れは無事終わることができました。

また、全体の参加人数が多い分、安全対策に力をいれましたが、学生の中には事前に説明があったにも関わらず半袖などの服装で山に入る参加者もあり、防虫スプレーやカブレの木をテープで囲うなど以外にも対策を進化させなければならないなと感じました。



▲安全祈願セレモニー「どんぐり！ころころ！」



●親子プログラム

6月1日 日曜日に晴天の下、龍王山にて山のグラウンドワーク（シャープの森）を行いました。普段山に立ち入ることが無く、今日は、心地よい汗を流す事が出来ました。子供たちも日ごろ木を切る機会は無かったことで、一生懸命除伐作業に没頭していました。今後も、この活動を続けて参ります。

文責：松下 政司(シャープグリーンクラブ東広島)



■午後の部

参加者：125人

1. 講演「地球温暖化と木質バイオマス」

佐藤高晴広島大学大学院総合科学研究科准教授（実行委員会運営委員長）の地球温暖化とバイオマス利用についてのお話をみんなで聞いて、里山の活用の意義などについて学びました。



▲もみじ谷を抜け、龍王の名水をめざす



▲西条・龍王の名水の解説

2. 「龍王の名水」ガイドツアー

龍王山に初めて足を踏み入れたのは、今から12年前、広島大学に編入学をした20歳の時でした。広島で森林ボランティアをやってみたいと思っていた私は、授業で西条・山と水の環境機構の山のグラウンドワークの話を聞いて、「これだ!」と感じて友達と参加しました。それから、年に数回参加を続け、気づけば2010年から運営委員になり、「山の日」の司会も担当するようになりました。

そして、今年は「山の日」のプログラムの一つとして、「西条・龍王の名水の話と見学」を担当しました。広島大学の学生を含む参加者の皆さんに今度は私が教える番になったことを、嬉しく思います。そして当時のことを懐かしく思いました。12年前に足を踏み入れたのは実は「山」という自然環境ではなく、心から山を慈しむ人たちの「社会」だったのかもしれない。

文責：小倉 亜紗美（西条・山と水の環境機構 運営委員/広島大学平和科学研究センター助教）



▲午前の山の手入れ終了後の集合写真

近畿大学工学部化学生命工学科の2年生を中心とした13人のメンバーが参加した様子が大学のブログで見ることができます。こちらをご覧ください。
近畿大学工学部キャンパスブログ <URL>

<http://www.hiro.kindai.ac.jp/blog/?p=319>

記録者：船本 昌義（東広島市会場 事務局長）

初心者のための登山教室

■参加人数：21人

<プログラム状況>

今年度は昨年と変わり、好天の中、みどりの少年団と保護者、日本山岳会スタッフ3人の参加者で実施した。

猛暑に近い暑さで、ゆっくりしたペースで途中休憩を取りながら登った、少々バテ気味な子もいたが、みんな元気に山頂に到着、展望台からの眺めも、もやで霞んでいたが、集合写真を撮り、下りは別ルートにて怪我もなく全員元気に下山。

親子登山ハンドブック・安全登山ハンドブック等の資料を参加者に配布して終了した。



▲登山の様子



▲山頂での集合写真

記録者：森 茂樹(日本山岳会広島支部)

野鳥観察「森の野鳥を探そう！」

■参加人数：57人

<プログラム状況>

森の野鳥を探して約1キロの道のりを散策した。野鳥の声を耳にしながら、季節の草花や樹木や昆虫などを観察し、動植物への感心を深めた。

スズメバチ等に対する諸注意、双眼鏡の使い方を学んだ後出発。山道へ入って直ぐホオジロの鳴き声、少し進んだところでキビタキの心地よい囀りが聞こえ、暗い木々の間を飛ぶ美しい姿を目にする事が出来た。子供達は大好きな昆虫を見つけては「なに？」と尋ね、その都度指導者が平易に説明。目を輝かせて熱心に記録表に記していた。女子児童は「鳴き声とか鳥のいろんなことを知る事ができ楽しかった」と話していた。



▲双眼鏡の使い方を習う



▲龍王の名水付近で観察

記録者：谷口 昌司(東広島市の野鳥と自然に親しむ会)

森のネイチャーゲーム

■参加人数：18人、午後は中止

<プログラム状況>

快晴の青空のもと、緑の少年団の4年生12人と引率の大人3人と一緒にネイチャーゲームを楽しみました。

もみじ谷からさくらの広場まで登りながら、自然の中のいろいろな形を探す「フィールドパターン」と、だるまさんが転んだに少し似ている「いねむりおじさん」をしました。フィールドパターンでは、葉を広げる前と枯れたばかりのシダの葉が、渦巻状をしていることや、芋虫の這う姿に「蛇行」の形を見つけました。「いねむりおじさん」では、最初はのび足がうまくできなかったけれども、何度かの挑戦で、おじさんに近づく技が上達しました。どこをどう歩けばよいか、それぞれ観察して実践できた成果です。



▲ネイチャーゲームを楽しむみどりの少年団たち

記録者：浅野 敏久(広島県シェアリングネイチャー協会)

森の木工教室&丸太切り体験

■参加人数：90人

<プログラム状況>

昨年とは違って、今回は「山の日」にふさわしい天候に恵まれ、「山のグラウンドワーク」への協力、「丸太切り体験」、「森の木工教室」を担当し、大変気持ちのよい汗がかけました。

手鋸を使つての除伐作業、除伐した木を破砕機にかけるチップ作業、柄の長い鋸を使つての丸太切り、懸命になって本立てや巣箱を作り上げた木工体験を通じて、参加された方々が、「山に親しむ」「山を知る」「山を育てる」など、山の持つ様々な機能や、山が私たちの生活に果たしている役割を少しでも理解し、興味を持っていただけたかと思ひます。

これからも、「山の日」を通じて、さらにいろんな世代の人に山に関心をもってもらえるよう頑張っていきたいと思ひます。



▲木工教室で巣箱をつくる



▲丸太切り体験

記録者：松浦 尚樹(賀茂地方森林組合)

ハーブで遊ぼう！

■参加人数：延べ85人

<プログラム状況>

今年も緑の少年団と一般参加の人達で和やかなブースになりました。

ハーブ石けんづくりは、はちみつや憩いの森産のラベンダーの抽出液等をフレーク状の石けんに、手の温もりで練りこんで乾燥させて仕上げる方法をとりました。

子供たちは星や丸等、思い思いの形に仕上げる工程をおしゃべりと共に楽しんでいました。

写真のバラの形の石けんは一般男子の作品です。サプライズのナスタチュウムの花と葉の試食も好評でした。良いお天気に恵まれ、風と光と香りと会話…とても良い時間が持てました。



▲お行儀よく説明を聞く子供達



▲石けんの素を練り込む 右上:シャボンのバラ

記録者:高見 京(憩いの森ハーブ研究会)

ペレットストーブの実演展示

<プログラム状況>

今回は、ペレットストーブ2台、ペレットBBQグリル「きりんさん」、小型火力発電装置 Biolite の展示を行いました。炎天下ということもあり、一般来場者の数が少なかったですが、多くの方にペレットストーブの良さ、アウトドアの楽しさを知っていただきました。青森ヒバで出来たペレットプールを作ったところ、大人気で親子でも楽しんでいただきました。行政の方ともお話しでき、バイオマスの課題、どのような方法がうまく地域に根付くかなども話ができ、東広島市の今後の展開が楽しみです。

バイオマスでも何かと言えば発電、発電と言いますが、現代社会において電気に頼らない生活は出来ないと思いますので、一人一人が電気をなるべく使わない生活することだけでもこれからの日本の再生可能エネルギーの有効利用が出来るのではないかと思います。



▲ペレットストーブを囲む見学者



▲青森ヒバのペレットプール

記録者:山野井 重典(ヤマノイ株式会社)

木やどんぐりを使って 動物づくり

■参加人数：延べ54人

<プログラム状況>

「ドライフラワーの花台飾り」づくりは、簡単にできるようにドライフラワーを束にしたり、段ボール3枚を重ねた花台に色を塗ったりして事前に準備しておきました。ドライフラワーに花の色が残っており、穴に差し込むだけなので、女の子や婦人たちに大変人気がありました。「どんぐりのフクロウとハリネズミ」づくりはどんぐりを真中で半部に切り、これをハリネズミの頭にしてヤシヤブシの胴体にくっつけて白目・黒目を白・黒ペイントを使って描くと出来上がり。可愛いと評判でした。「枝木を使った動物」づくりは丸太の半割りを胴体として、小枝の輪切りを目や口にそして小さな円板を耳に見立てて、円板の顔に貼り付けそれを胴体に張り付けて出来上がり。

多くの子どもたちが、時を同じくして体験しに来たのでうまく指導が出来ませんでした。「みどりの少年団」参加者は2グループに別れて各イベントを体験していたようでした。出来れば4～5グループに別れて各イベント会場に分散し参加していただければ、体験会場が込み合うことなく、上手く製作指導が出来たと思います。



▲花飾り

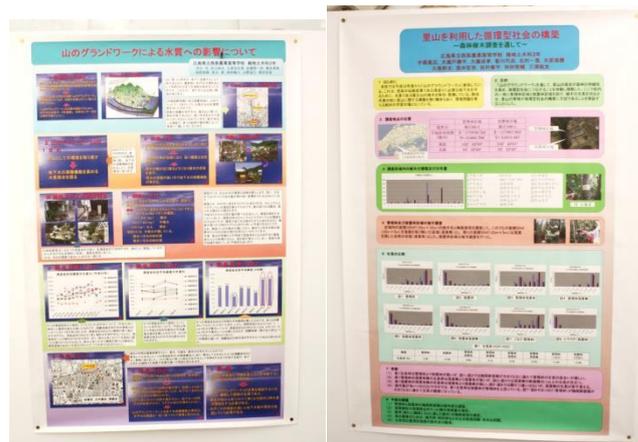


▲花飾りづくり

記録者：幾田奉文（日興苑遊歩会）

西条農業高校の活動展示

西条農業高等学校の学科の紹介・スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の研究内容の紹介



ひろしまの森づくり県民税 「ひろしまの森づくり事業」コーナー



全体

■参加人数：約2,500人

<プログラム状況>

早朝より陽ざしの強い中、「第13回ひろしま「山の日」県民の集い in はつかいち」が参加者2500人で開催しました。

“元気がでる森づくりをしよう”の合言葉で展開されたこの日のプログラムは、JRふれあいウォーク、森のネイチャーゲーム、作って飾ろう！草花あ・そ・び、親子でピザを楽しむ会、魚のつかみどり、森のクラフト教室、森のつみ木広場、薪割、ドラム缶炭焼き体験、ポニーと遊ぼうと10種のプログラムと森での楽しみとして、けん玉の実演、フルートの演奏などで盛りだくさんでした。

10時に開催された開会式では、櫻井実行委員長の開会挨拶に続き、メインイベントの「山の日」宣言は、広島修道大学生のボランティアを代表して谷さん、延藤さんの2人が力強く宣誓。締めくくりは、阿品の森サポータークラブの井上会長が作業場の注意点などを発し、安全祈願の「どんぐり！ころころ！」は、渡辺さんが力強く三唱して式典を終了しました。



元気がでる森づくり

<プログラム状況>

元気がでる森づくりは、広島修道大学の学生ボランティアが中心となり、一般を合わせて参加者総勢210人がヘルメット姿の腰ノコをぶら下げて11班に分かれてキャンプ場内近くの班分けしてある森

に移動し森の手入れを行いました。

(企業参加：(株)メタルワン西日本)



▲森の手入れ 綺麗な森になって感心、感心



▲こうやって木を切るのじゃ



▲切った木を搬出 重いなー

記録者：梅田 斉（一般財団法人もみのき森林公園協会）

開会式会場を取り巻くイベントブースでは、朝早くから準備してきたスタッフが商品や体験行事の材料を並べ、各種の体験行事を実施し好評を得たでした。

ドラム缶炭焼き体験

■参加人数：約 20 人



▲薪割、炭焼き体験コーナー

草取り体験



▲昨年植樹したレンゲツツジ周辺の草取り

この日、もみのき森林公園で行なわれた森林の多様性に関する体験活動は、次のとおりです。

- 新緑のもみのき森林公園 参加者 8 人
- 森のネイチャーゲーム 参加者 40 人

- クラフトづくりコーナー 参加者 61 人
- 魚のつかみどり 参加者 86 人
- ポニーと遊ぼう 参加者 76 人
- 森のコンサート(けん玉、フルート) 参加者多数



親子でピザを楽しむ会

■参加人数：127人（33組）



森のつみ木広場

■参加人数：127人



全体

■参加人数：332人

＜プログラム状況＞

当日は、梅雨入り前の晴天で熱中症の心配をするほどの良い天気でした。9時50分に芝生広場において鎌田園長の挨拶に続き「もりメイト倶楽部 Hiroshima」の砂原秀年さんによるひろしま「山の日」宣言を行い1日の盛況と無事故を祈って開始しました。

開催したイベントは、フォレストクラブ森守の協力を得て行なった「グリーンアドベンチャー」、広島市シェアリングネイチャーの会のトレーナーによる「森のネイチャーゲーム」、もりメイト倶楽部Hiroshima運営の「森林公園内の「山の手入れ」、公園主催の「スタンプラリー」の4つで、各々のイベントとも当森林公園の特質を生かしたものとなりました。

「グリーンアドベンチャー」は管理センターをスタートとゴールにして森林公園内をクイズを解きながら親子で楽しんで頂きました。「ネイチャーゲーム」は、木陰に入って自然の中でいるんなゲームをしていただきましたが特にカモフラージュは日頃と違った集中力を発揮されていました。「山の手入れ」は第2駐車場横の森林内で行いました。初めてノコギリを持ったような子どもさんが一所懸命木を切っていました。「スタンプラリー」は芝生広場周辺のポイントを探してスタンプを押して景品のプレゼントをゲットされていました。

そして、スタッフの尽力と参加者の協力を得てすべてのイベントが滞りなく進み16時のイベント終了まで、広島市森林公園での1日を楽しく有意義に過ごしていただきました。



▲鎌田園長の挨拶



▲「もりメイト倶楽部 Hiroshima」砂原秀年さんによる
ひろしま「山の日」宣言

記録者：桑田 荘一郎(広島市森林公園)

森林公園内の山の手入れ

■参加人数：44人

＜プログラム状況＞

真夏日のような暑さの中、朝から子どもたちの元気な声が園内に響いています。

まず、木陰に入り今日の活動内容・道具の使い方・木の倒し方やシカ・イノシシによる獣害問題などの説明後、班別に山に入り間伐作業を開始しました。各々大きな木や小さな木に挑戦し、あちらこちらで木が倒れ始めました。

大きな木が音を立てながら倒れて行き子どもたちの喚声が上がります。子ども達にとって、この一瞬が一番感動するのでしょうか。どンドン木が倒れるにつれて視野が開け、森が明るくなって行きました。休憩時間には、切った木の名前や年輪の数え方などを学習し、額の汗をふきながらの間伐作業も終わりました。今日の体験を通じて森で遊ぶ楽しさや大切さを少し理解して頂いたことでしょう。

記録者：砂原 秀年(もりメイト倶楽部 Hiroshima)



▲事前に活動の注意をお話ししました



▲親子で熱心作業をされていました

森のネイチャーゲーム

■参加人数: 46人

＜プログラム状況＞

- ① ノーズ
- ② 感触の小箱
- ③ カモフラージュ
- ④ 自然のフォトフレーム

① 「ノーズ」は、ある生きもののヒントからその生きものを推測していくことで、参加者は興味津々でした。低年齢の子どもが多かったので生きものはカエル、モグラ、カラスにしました。

② 「感触の小箱」は、自然にあるものとよく似た感触のものを触り、それと似たような感触を自然の中で探す活動で、参加者一人ひとり感じたものを探し出せました。「みんな違ってみんないい」の

言葉がピッタリでした。

③ 「カモフラージュ」は、森の道わきに目立たないように置かれた人工物を注意深く探すことで、保護色や擬態でカモフラージュして生きている生きものがあることを知っていただきました。参加者全員がどうしても十円玉を見つけられませんでした。

④ 活動の後、おみやげにダンボールを土台に周りをお枝と、この場所で拾った物を飾ったフォトフレームを作り、持って帰っていただきました。

今回、参加された皆さんは、ネイチャーゲームの体験が初めてだったけれど、真剣に取り組んでいただき、少し自然と友だちになっていただいたような気がしました。



▲ノーズ (大人も子どもも一所懸命)



▲感触の小箱 (中身はなんだろう?)

スタンプラリー

■参加人数：140人

＜プログラム状況＞

芝生広場周辺でスタンプラリーを実施しました。コースは、広場中央を受付、ゴールとして、芝生広場4か所ー休憩所ーこんちゅう館ーメルヘンの森ー見晴し台ーの8つのスタンプポイントを設置して、園内を楽しく散策していただきました。全部押した方にスタンプラリー賞として景品を配布しました。晴天に恵まれ68組137人の方が参加されました。



▲カモフラージュ（さあ、どこにあるかなあ？）



▲自然のフォトフレーム（今日のおみやげ）

記録者：森 垣夫・査子（広島県シェアリングネイチャー協会）



▲受付に集まる子どもたち



▲楽しそうにスタンプを押す家族連れ

記録者：飯田 真三（広島市森林公園）

グリーンアドベンチャー

■参加人数：101人

＜プログラム状況＞

本コースは「管理ボランティア フォレストクラブ森守」が中心となって4年前に整備されたもので森林公園内をクイズラリー方式でトレッキングできる常設コースです。

延長2,150m、標高差150m、雑木林、人工林、モミジ植栽林、溪流園路、つり橋など変化に富む園内のコースに18問を設置しており、問題と回答用紙を兼ねた探検地図も ver.5 を重ねるほどの当公園の人気定番イベントのひとつでもあります。この日は各地で夏日真夏日を記録する程の陽気の中で、参加者25組90人全員がゴールされました。参加者には当公園で製作された記念品(押し花入りのしおり、ドングリのフォトスタンド)と、成績優秀者(ただし子ども限定)には昆虫の絵柄缶バッジをプレゼントしています。



▲まずは受付（山で迷子にならないくださいね）



▲フォレストクラブ森守の担当者から説明を聞く参加者



▲この日は汗ばむほどの陽気(ただいま木陰で休息中)



▲ゴールまでもう少し(よ～し行くぞ！)

記録者：牟田口 努（フォレストクラブ森守）

全体

■参加人数:約540人

＜プログラム状況＞

新緑薫る晴天の下、午前10時、正本実行委員長の挨拶、地元福田町老年会（福寿会）児玉会長の祝辞の後、「可部南グリーンズ緑の少年団」による「山の日」宣言で開会しました。（来園者、約540人）開会式終了後、園内2箇所で開催された森林ボランティア「ふれあい湧」「ひろしま人と樹の会」の指導の下、「さくらの森」周辺で白木愛山会と三井ボランティアグループ合わせて18人が「森の手入れ」、集いの広場周辺の山林では「可部南グリーンズ緑の少年団」38人により除伐、間伐が行なわれました。

また、集いの広場では地元福田町老年会、小河原地区麻下自治会合わせて56人によるシャクナゲ、八重桜の苗木の植樹を行いました。（広島市森づくり支援事業参加者合計112人）なお、植樹終了後に「山の日」協賛グランドゴルフ大会も盛大に、開催されました。

レストハウス前広場では「モーリースタンプラリー」、「森のネイチャーゲーム」、「森のノルディックウォーク」、「ペンダント・コースターづくり」「紙ヒコーキ飛ばし」、の5つの参加型プログラムに加え、今回から「木登り体験」を準備、多くの親子連れなどが、それぞれ楽しんでおられた。（参加者170人）レストハウス裏でのフリーマーケットは16店と多数の出店がありました。森の音楽会は、クラリネットとピアノ演奏があり、会場と一体となった合唱もあり盛り上がった。今回は緑の少年団による緑の募金活動をおこない、多くのご寄付をいただきました。ご理解、ご協力誠にありがとうございました。



▲開会式



▲山の日宣言



▲フリーマーケット



▲森のコンサート

記録者:行正 高成(広島県緑化センター)

ペンダント・コースター作り

■参加人数：14人

＜プログラム状況＞

参加者が心配されましたが、展示されたペンダント見本を見て立ち寄った来場者で満席になる時もあり、当日は狭いテントの中での作業となり、気温が高かったことから、指導員は大変でしたが、参加者から「可愛いのができた！ありがとう。」との言葉を頂きました。



記録者：小野 寛(ふれあい湧)

森のネイチャーゲーム

■参加人数：22人

＜プログラム状況＞

ネイチャーゲームで参加した私たちは、会場周辺の林や山、池のフィールドを使って、「生きものさがし」ゲームをみなさんにやっていただきました。ネイチャーゲームは人の五感を使って自然と遊び、自然から学び、自然を尊重し、気づいていく活動です。

参加した子供たちは、「生きものさがし」プリントを片手に、落ち葉の下をのぞいたり、木の葉に虫がいないかさ

がしたり、池の水際に生きものの気配をさがし、最後にみんな集まって、振り返りを行い、どんな生き物がいたかを分かち合いました。立ち止まって、じっくり自然を感じることの楽しさを感じて下さったようです。



記録者：斉藤 久美(広島県シェアリングネイチャー協会)

折り紙ヒコーキとばし

■参加人数：16人

■担当グループ：ふれあい湧

＜プログラムの状況＞

芝生広場で実施した折り紙ヒコーキとばしには、景品引換券を目当てに大勢の子供たちが、挑戦してくれました。決められた飛行距離になかなか届かない子もいましたが、諦めずに頑張っていました。

お父さん、お母さん達も昔を思い出して楽しんでいた。帰宅してからも共通の話題に花が咲くことでしょう。



記録者：行正 高成(広島県緑化センター)

木登り体験

■参加人数：28人

＜プログラムの状況＞

多目的広場奥のクスノキ（樹高約7m）を使って木登り体験会を行いました。墜落時のセーフティネットとして、子供たちにはハーネスを着用し、地上5m程度に設置した命綱で確保しながら木登りを行ってもらいました。ハーネスのサイズ範囲の都合で、小学生のみを対象としていましたが、ハーネスを試着してみても問題ない子どもさんには体験してもらいました。当該樹木は木登り終了地点（地上4m程度）に大きく枝分かれしている箇所があり、両手が離せて安定した姿勢がとれます。ここが絶好の写真撮影ポイントとなり、親子ともども楽しんでもらえたと思います。当日は日差しが強く汗ばむ陽気でしたが、木登りは木陰となり、涼しい環境で楽しむことができました。虫（蚊）が多く、気になったので、虫よけ対策が今後の課題です。



記録者：小林 健一（みずえ緑地株式会社）

モーリー・スタンプラリー

■参加人数：49人

＜プログラムの状況＞

レストハウス前（ヤマボウシ）、芝生広場（カルミア）、管理事務所横車庫上（センダン）の三カ所にモーリースタンプ台を設置しました。3カ所にはそれぞれ花が咲いていてスタンプラリーの参加者に楽しんで貰えるようにしました。

3カ所スタンプを押して戻れば、景品がもらえるということで、いろいろな人が挑戦していました。

記録者：行正 高成（広島県緑化センター）

森のノルディクウォーク

■担当グループ：オール・オン・スポーツ

＜プログラムの状況＞

最初にノルディクウォーキングの成り立ちとその効果や歩き方、ポールの使い方など基本的な事項について説明がありました。続いて、実際にポールを持つての歩き方の練習が行われました。

基本動作を十分練習した後、レストハウス前を出発。健脚組は管理事務所経由して東山作業路を通り野鳥観察小屋下から遊歩道に入りレストハウス裏を通り過ぎ林間広場へ、初心者組は、管理事務所周辺から林間広場へ、約1時間半ウォーキング体験しました。体力づくり、スタミナアップ、減量などにとっても効果的で、上半身をしっかり使うので、肩や首のコリの解消などにも有効とのことでした。



▲ノルディクウォーキング体験

記録者：行正 高成（広島県緑化センター）

記念植樹と「山の日」協賛 グランドゴルフ大会

■参加人数：56人

＜プログラム状況＞

今年は福田地区の福寿会から42人と小河原地区の麻下自治会から14人の参加がありました。

皆さん張り切っておられ8時に集いの広場（グランドゴルフ会場）に集合され、10時の開会式迄に全員で1ゲームを行い、レストハウス前の開会式場へ移動しました。なお、開会式には福田連合会の児玉会長からもご挨拶を頂きました。

開会式終了後再度集いの広場に集合して、八重桜10本、西洋シャクナゲ30本を植えて頂いた。植床は事前に整備しており穴を掘って植えれば良い様にしていたため30分位で終了しました。それから残り1ゲームを行って頂いた。ホールワンが出たり調子が良いと歓声が出たり楽しくグランドゴルフが出来たようでした。グランドゴルフが終わって、再度レストハウス前に帰り、森の音楽会終了後に表彰式が行われた。優勝から五位とBB以外の飛び賞10個はくじ引きで行われ思わぬ人が賞に入り喜んでおられた。



▲植樹の様子

記録者: 廣瀬 健(広島県緑化センター)

森を活性化しよう

■参加人数：18人

＜プログラムの状況＞

参加者は、白木愛山会(山岳会)から13人、三井ボランティアネットワークから2人、一般参加が1人でした。森林ボランティア2人の指導の下、さくらの森で、桜とツツジ・ヤブツバキ・タムシバ等を残して他の木は切って頂いた。広葉樹がほとんどでかなり大きくなったものもあったが、手ノコでどんどん切って頂き、残した木も日当たりが良くなり早く大きくなりそうです。皆さん、平素からノコも使っておられるようで、大きな木でもあつという間に倒され、時には掛かり木になる場合でもうまく倒して玉切りにして棚積みにし、整備して頂いた。

「良い汗をかかせて頂き、大変良い一日でした。来年も行われれば参加したい」とのありがたい言葉

をいただきました。素晴らしい「山の日」県民の集いでした。



▲山の手入れ

記録者: 廣瀬 健(広島県緑化センター)

森を生かそう！間伐・除伐

■参加人数：38人

＜プログラムの状況＞

今年も可部南グリーンズのみどりの少年団が父兄共で38人参加、開会式で元気よく「山の日」宣言を行ってくれました。

集いの広場下側に移動して、ひろしま人と樹の会の太田さんと神川さんに指導を受けて、木を倒して処理していました。皆一生懸命で汗びっしょりになって、頑張ってくれました。徐々にノコの使い方もうまくなり10本以上倒した人もいました。だんだん元気な森になっていくことでしょう。皆さん、お疲れさまでした。



▲除伐・間伐

記録者: 廣瀬 健(広島県緑化センター)

全体

■参加人数：2,238人

＜プログラム状況＞

6月1日、薄曇りの山作業には絶好の天気になり、中央森林公園センター前広場で第13回ひろしま「山の日」県民の集い三原市会場が開催された。この日、メインの「里山の手入れ」と木の文化体験コーナーでは、「チェーンソーアート実演ショー」「木工・グラフト体験コーナー」「丸太きり大会」「森のネイチャーゲーム」「子ども体験コーナー」「森のコンサート」「協賛グループの展示即売会」「ポニーと遊ぼう」など8種類のプログラムを実施した。

当会場の特色は地元関係者をはじめ企業各社グループ、東広島市社会福祉協議会145人の家族連れの参加があったこと、「2014年ミスやっさ」の参加があった。

開会式は福島偉人実行委員長が今日は里山との対話を十分楽しんでもらいたいとのあいさつで幕を開けた。祝辞は、三原市長五藤康之さんにいただき代読を山口三原市経済部長がされました。来賓紹介は出席いただいた広島県自然環境課長菅原基晴さん他4人の紹介を行った。

山の日宣言は中央森林公園協会石丸理事長が宣誓を行った。

メインの「里山の手入れ」には56人の参加があった。参加者は4班に分れて森林ボランティアの指導で里山の手入れに取り組んだ。参加者はヘルメットを付けて、下草を刈ったり、除伐を行い、運び出し粉砕機でチップ化（堆肥）とした。約2時間の作業であったが0.5ヘクタールの里山が明るい林に再生した。

午後からは、森のコンサートや各種プログラムの行事に一般参加者が加わり、お祭の雰囲気が最高に盛り上がり、多くの家族連れ（2,238人）で終日賑わった。

山や森の大切さを理解し行動する人の輪を拡げていくきっかけができた1日となった。



▲主催者 福島実行委員長 開会あいさつ



▲天満市長祝辞 山口経済部長代読



▲開会式典



▲2014年ミスやっさ三原のPR



▲山の日宣言、中央森林公園理事長

里山の手入れ

■参加人数：56人

下草刈り除伐作業

切った木は運び出しチップ処理(堆肥)しました。



チェーンソーアート実演ショー

■参加人数：見学者多数

チェーンソーアート実演ではロックビルダーの西田和弘さんにフクロウを製作してもらいました。



木工・クラフト体験コーナー



▲色とりどりのクラフトを楽しみました



▲親子でイスやCDラックを作りました

丸太切り大会

■参加人数：23人

親子で直径15cmのヒノキの丸太を切る速さを争う競技に挑戦してもらいました。

参加者の早いタイムは1分40秒、とても早く切られました子どもさんのタイムは約4分でした。





森のネイチャーゲーム

■参加人数：13人

○目かくしイモムシ

目隠しをして3～4人でイモムシを作り、リーダーが森の中を誘導する。足下の感覚や触れたものを手触り、太陽や風について感じてもらう。少人数でしたがじっくりと公園に自然を楽しみました。



記録者：大石 直介（広島県シェアリングネイチャー協会）

森のコンサート

入野 篁（にゅうのたかむら）太鼓、ハワイアンダンス、オカリナでお祭りを盛り上げました。



▲ハワイアンショー



▲東広島オカリナ愛好会のみなさん



▲入野篁太鼓

協賛グループの展示・即売会



▲展示販売のブース

ポニーと遊ぼう

小さな子馬は多くの子供たち乗ったり触れるなど大変好評でした。



全体

■参加人数：170人

<プログラム状況>

庄原会場は、事情により6月8日に開催しました。前日までの雨が朝には上がり、2年連続の雨は回避できました。例年通り、オープニングは地元の板橋小学校6年生による板橋一心太鼓の演奏で幕を開けました。そして、里山トライアスロンへと流れて行ったのですが、これも地元、広島県立大学庄原キャンパスの学生たちが大いに盛り上げてくれました。小学生の保護者の方などは、見たこともない競技に興味津々で、斧で薪を割る競技やロケットストーブに材料を入れてマッチで火をつける競技に釘付け状態でした。

私はその光景を見ながら、これって非常時には必要となることではないかと思いました。太古の昔から山は人間が生きていく上で絶対に必要なものが沢山ある宝の山だったのです。

自然観察会の参加者は毎年増加傾向にあります。それは、山を癒しの場と捉える傾向があるのではと想像します。「山の日」のこれまでの役目とこれからの役目は違ってくるのではないのでしょうか。これまででは、何とか祝日にしようということでの運動としての「山の日」でしたが、制定後は、もっともっと山の中に入って活動し、山は特別なものではないことを実感する方向にしていきたいですね。



▲開会式での太鼓の演奏

記録者:はやし 高正(板橋さとやま倶楽部)

自然観察会

■参加人数：16人

<プログラムの状況>

参加者：午前の部6人、午後の部10人。
およそ1時間をかけて学びの森をゆっくり歩きながら講師のお話をききました。驚きは、キウイフルーツが成長していたことです。誰かが何気なく捨てたことで生えてきたものと思いますが、生態系はこんな形で崩れていくのだと知りました。



▲植物観察を楽しむ

森で体験しよう

■参加人数：8人

<プログラムの状況>

準備していた材料を窯に入れていただきました。大人ばかりだったので、約1時間で終わりましたが、相当にお疲れの様子でしたので、お土産として炭をプレゼントしました。

里山の手入れ

<プログラムの状況>

参加申込み1人 58歳の女性でしたが、エンジンチェーンソーで松の木を1本切ることが出来ました。実家の山の手入れをしたいとおっしゃっていましたが、無理はなさらない方が良いのではとアドバイスしておきました。

指導担当は、備北森林組合の職員1名があたりました。



▲斧で薪を割る競技

里山トライアスロン

■参加人数：20人

<プログラムの状況>

広島県立大学の学生を中心に18歳から64歳の社会人など、20人の人たちが競技に参加しました。

4人が1チームで競技を行い、タイムにより順位を決定。準備を兼ねて昨日初めて女性だけのチーム1組で競技を行ったところ、意外と女性にもできるということが分かりました。是非、里山トライアスロンを山の日の定番に育てたいと考えています。



▲競技に興味津々



▲ロケットストーブに材料を入れてマッチで火をつける競技

記録者：はやし 高正(板橋さとやま倶楽部)



全体

■参加人数：70人

＜プログラム状況＞

第13回ひろしま「山の日」県民の集いを、6月1日(日)にふくやまふれ愛ランド(福山市赤坂町)にて開催をしました。福山市会場での開催も8回目を迎えたこともあり、来場者も定着し山に対する意識も高く、次第に盛り上がりを見せています。テーマである「つながり」を全面に謳い、地元を中心として呼掛けをしたこともあり、当日の参加者は70人余りになりました。「山に親しむ、山を楽しむ、山に学ぶ」をモットーとして、山や森の大切さへの理解を得て、県民の輪を広げる目的は達成出来たものと確信しています。開会式では、福山会場関係者を代表して大石真之様より声高らかに開会宣言をして頂きました。開会挨拶に続いて、「山の日宣言」を地元の若者を代表して宮地勇貴様により大変力強い宣言をして頂きました。

続いて、内海康仁実行委員長よりご挨拶を頂きました。挨拶の中で平成28年8月11日から「山の日」の法案成立の報告も有りました。セレモニーの最後に全員でラジオ体操を行い、今回のメイン事業である「山のグラウンドワーク」への参加に備えました。「山のグラウンドワーク」への参加者は50人余りでした。広島県東部森林組合の方で、植樹箇所目印をして頂いたことも有り非常に助かりました。植樹(ヤマザクラ)、里山の草刈や樹木の手入れ作業等を実施しました。参加者は程良い汗をかき充実の日ではなかったかと思えます。

最後に、ひろしま「山の日」県民の集いが盛会で充実した1日で終わることが出来たことは、参加者及び運営へご協力いただいた数多くの関係者の方によるもので有り大変感謝致します。

記録者:赤木 茂(福山市会場実行委員会事務局長)



▲松川光司さんによる「山の日」宣言



▲参加者

山のグラウンドワーク

■参加人数：50人

＜プログラム状況＞

開会式終了後は、ヘルメット、カマ及び手袋を各自に渡した後、作業内容・注意点等の説明をしました。その後、会場近くの山林内(D遊歩道沿い)に移動して植樹(手入れ)を実施しました。

今年は、「ヤマザクラ」を植栽しました。前もって、植栽場所に目印をしていたこともあり、また指導者からの指示通りにしっかりと土の踏み込みもしており来年の成長が楽しみです。

当日の晴天に恵まれ、参加者との共同作業にて充実した1日でした。



▲植樹「ヤマザクラ」

記録者:佐藤 元則(広島県東部森林組合)

三次市会場 酒屋地区憩いの森・ほしはら山のがっこう

全体

■参加人数: 150人

＜プログラム状況＞

ひろしま「山の日」県民の集い in みよしは、三次市東酒屋町の「酒屋地区憩いの森」をメイン会場に、三次市上田町の「ほしはら山のがっこう」をサテライト会場にして開催しました。

「酒屋地区憩いの森」会場では、工夫を凝らしたイベント内容で、参加者は森林にふれあい、親しみを体感するなど意義ある1日になりました。

森の手入れでは、子ども達が森林インストラクターから森林が果たしている役割について話を聞いた後、指導者のサポートにより安全に注意し、初めて手にしたノコギリで木を切り倒したり、切った木や枝を運びだし、チップパー機で粉碎し、そのまま山に返しました。また、酒屋自治会連合会による竹による弓矢や竹トンボづくりなどの森の工作コーナーや恒例となった大人気のカブトムシの幼虫探し、天然素材アロマを使った防虫スプレーづくりや馬洗川自然塾による木登り体験コーナーなどの森遊びを親子で楽しんでいただきました。お昼には森林インストラクターが現地調達による山野草の天ぷらと、地元JA 女性部の皆さんによる特製カレーライスが販売され、自然の恵みをいただきました。

サテライト会場の「ほしはら山のがっこう」では、おもしろさを五感で体感できるネイチャーゲームや巨樹エノキの木登り体験、竹を使ったおやつづくりなどの自然体験塾を行いました。

記録者: みよし山の日実行委員会(三次市農政課)



▲会場風景



▲会場風景▼





▲山の手入れ



▲木登り体験



▲森の工作コーナー▼



▲アロマ防虫スプレーづくり



▲カブトムシの幼虫さがし



全体

■参加人数：195人

＜プログラム状況＞

5月30日 会場準備：野呂高原ロッジ隣接広場
○参加者：中国木材、呉市役所、サポート・トレッキング・グループ

6月1日 ひろしま「山の日」式典・開会
○受付で参加者に参加記念品を配布
○大会委員長挨拶：堀川保幸氏（中国木材(株)代表取締役社長）
○「山の日」宣言：佐藤一教大会副委員長（バブコック日立呉部長・工学博士）
○安全祈願：宮岡泰久（サポート・トレッキング・グループ会長）



▲開会式 堀川 保幸 実行委員長のあいさつ



▲開会式の様子

記録者：宮岡 泰久（サポート・トレッキング・グループ）

山のグラウンドワーク

■参加人数：145人

＜プログラム状況＞

森の中に生えている竹の伐採・搬出。

各班に安全指導者2人を配置し、長い竹で怪我がないように注意。森から搬出には中国木材の若手が活躍。搬出された竹が見る見るうちにやまになる。休憩をはさんで11時30分まで。

鬱蒼とした森が、明るく、広くなりこれまでとは全く違った森に変身。汗だくになった参加者の体に心地よい風が通過、作業を終えて働き甲斐が明確に認められた。森から搬出した竹をチップパーマシンにかけて粉碎作業。正午前に大会終了。記念写真を撮って三々五々退散。



▲森の中から竹を伐採し搬出する参加者

マシンは一日のリースにつき大会終了後も引き続き稼働、夕方まで有志でマシンの補佐をして粉碎作業を行う。天候にも恵まれ、皆様のおかげで、事故もなく救急薬品も使用することなく、無事終了しました。

翌日も朝から夕方まで、有志三人で竹の粉碎作業にあたる。粉碎した竹チップを4か所の山にして肥料用に積み上げた。マシンの補佐役は、なかなかきつく、帰宅後は酔っぱらった様にくたくたになる。汗であせもに後日悩まされた。

記録者：宮岡 泰久（サポート・トレッキング・グループ）



▲チップーシュレッダーで粉碎中



▲終了後の集合写真

丸太の輪切り

＜プログラム状況＞

子供たちが挑戦、指導はサポート・トレッキング・グループの女性5人が担当。

なかなか力がこもり大汗をかきながら奮闘、ほめながらの作業。輪切りになった檜に「山の日」の焼き印を押してもらって、嬉しそうにかえる。

記録者：宮岡 泰久(サポート・トレッキング・グループ)

森のネイチャーゲーム

■参加人数：36人

＜プログラム状況＞

梅雨を飛び越して夏が来たかとの晴天でした。

シェアリングネイチャー～自然のよこびをわかちあう～。今年野呂山に会場が変わりました。この季節、この山を、自然をより興味を持ってもらいたいとアクティビティを考えました。

最初は生きものをテーマしたネイチャーゲーム「動物交差点」。生きものカードを背中につけ、まわりに質問をしながら、自分の背中生きものが何かを推理して当てるゲームです。年長児も知っている生きもの名前を当てることができ、何度も繰り返してたくさんカードをつけて誇らしげでした。

次は陽気が良くなって、万物が次第に長じて天地に満ち始める頃、草木も盛んに成長して緑でいっぱい。色のカードを持って同じ色を探してもらう「森の色あわせ」というゲームをしました。若草色のモミジの種、緑青色のヘラオオバコの花序、ウコン色の松ぼっくり、飴色のクリの実等 今まで気づかなかった自然の色に出会いました。短い時間でしたが、子どもも大人も、身近な自然に5感を開き、この季節の息吹を感じることができました。

指導者は2人、参加者は34人でした。行事实施は安定しましたが、一般の方々も参加しやすくなるような工夫していければと思いました。



▲森のネイチャーゲーム(動物交差点)



▲森のネイチャーゲーム(森の色あわせ)

記録者：新庄 隆道(広島県ネイチャーシェアリング協会)

全体

■参加人数：187人

<プログラム状況>

第13回ひろしま「山の日」県民の集い八幡高原会場は、日本山岳会広島支部、広島県山岳連盟、NPO法人西中国山地自然史研究会が企画・協力し、二日間で4つのプログラムを準備しました。

登山道整備は、地元から希望のあった苅尾山の整備となりました。これに合わせ、初心者への登山教室も苅尾山で実施し、山麓の霧ヶ谷湿原の整備や、広場でのイベントと、二日間ともに八幡高原を象徴する苅尾山に関わった山の日になりました。

同様の活動も3年目となり、顔見知りが増えてきた事で、作業がスムーズになりました。所属する会が違っても山をフィールドとして関わる事で、共通点が生まれ、連帯感を感じます。そういった気持ちが生まれることも、山の日活動の産物です。

今回新しく北広島町芸北支所から「薪活！」のPRに来てくださった事も、大きな出来事です。薪をつかった豊かな暮らしの提案を軸に、森林や林業、そして地域の活性化をめざすことを、地域内外の方へ周知できました。

今後とも、「山の日」をきっかけに、山や八幡高原の自然や人と触れ合う機会をしたいと思います。

記録者：河野 弥生（西中国山地自然史研究会）

霧ヶ谷湿原の整備

■参加人数：27人

<プログラム状況>

日本山岳会広島支部を中心に、霧ヶ谷湿原の整備を実施しました。参加者は27人で、北広島町内外からの参加です。小学生も2人参加しました。

まず霧ヶ谷湿原がどんな場所かを知る為に、手作業班は西中国山地自然史研究会の内藤副理事長と高原の自然館の白川主任学芸員から現地で話を聞きました。その間、草刈り機の班は、どんどん作業を進めます。安全面からもこの方法は有効です。

湿原の整備にあたっては、専門家からアドバイス

を受けて、ノイバラなどの低木を除去します。一番大変な作業は、刈った草木を運び出す事です。ブルーシートを使って汗を流しながら、運び出しました。きれいになった湿原を見ると、作業の大変さも忘れられます。湿原を維持する事で、地域の環境が守られ、下流域の環境保全にも関わる事ができます。

山の恵みを守っているという意識をもって、安全に継続して取り組みたいと感じます。



▲湿原整備作業の様子



▲木や草を運び出す

記録者：河野 弥生（西中国山地自然史研究会）

臥竜山登山道整備 (広島県山岳連盟)

■参加人数：16人

＜プログラムの状況＞

5月31日(土)に広島県山岳連盟は北広島町八幡会場に参加し、千町原～臥竜山間の登山道整備を16人が参加して行った。当日9時30分に山麓庵前に集合して、広島県山岳連盟と日本山岳会広島支部合同の開会式を行ない、地元近藤会長のご挨拶・前垣副実行委員長挨拶・小学生による「山の日宣言」・安全指導を受けた後車で現地へ向かった。

作業は千町原登山口～雪霊水は主に登山道足下の草刈り、雪霊水～山頂は登山道の足場整備を中心に、2班に分かれて行った。草刈り隊は、草刈機2台で登山道の両側を刈っていき、残りの方が刈り残した草を刈って整理した。足場整備隊は足場の悪い所の足場を作って安全に登山できるように整備した。昼食は雪霊水前で2班一緒に食べて、午後は千町原入口の草刈りを時間迄行った。

閉会式は、映画「森聞き」鑑賞に間に合う様に早めて行ない、高原の自然観の白川学芸員の講評を頂いて閉会した。新緑の爽やかな木漏れ日の中、心地よく汗を流し、綺麗に整備された登山道を歩く爽快な気分は一人では味わえない連帯感があります。今後とも北広島会場の登山道整備を継続したいと思います。皆さんご協力ありがとうございました。



▲登山道の草刈り作業



▲千町原～臥竜山の登山道整備 2014.5.31

記録者：福永やす子（一般社団法人広島県山岳連盟）

初心者のための登山講座 ～苅尾に登ろう！～

■参加人数：14人

＜プログラムの状況＞

6月1日、初心者のための登山教室が北広島町の八幡高原で開催されました。

これは、ひろしま「山の日」県民の集い八幡高原会場のプログラムの一環で、毎年6月の第1日曜日に恒例として行われているものですが、今回は一般参加者11人を迎え苅尾山（臥龍山 1, 223.4m）登頂を計画しました。予定通り10時に参加者全員が集合し、日本山岳会広島支部の会員3人が引率して千町原登山口から山頂を目指しました。

参加者は大学教授、OLから主婦と多彩なメンバーでしたが、天候に恵まれたこともあって、新緑を楽しみながら賑やかな山行となりました。途中、雪霊水の水場手前の急登で男性1人が体調不良となりましたが、休息後、先発していたメンバーと合流し無事に登頂することができました。昼食後、講師から山の歩き方や登山の装備についてアドバイスがあり、参加メンバーは新たな発見があったように思われます。しばらく休憩して猿木峠経由で下山しましたが、苅尾山の頂上はもとより、登山道はよく整備されており安全で楽しい登山教室が実施できました。



▲登山講座の様子

記録者：近藤 道明（公益社団法人日本山岳会広島支部 登山講座委員会）



▲登山講座の様子

「薪活！」PR

＜プログラムの状況＞

6月1日は、「山に親んでもらう日」と位置づけて、西中国山地自然史研究会を中心に、PR スポットを設けました。

高原の自然館前の広場に、ロケットストーブ体験・せどやまクイズ・せどやま雑貨店・湿原のガイドウォーキング・薪ストーブ展示&薪割り体験・林間スラックライン・「薪活！」PR とバラエティに富んだブースを準備しました。

来場者は多くはなかったですがみなさんに体験していただくことで、山の自然や資源を使った取り組みを周知できました。



▲せどやまクイズ

記録者：河野 弥生（西中国山地自然史研究会）

全体

■参加人数：150人

<プログラム状況>

6月1日（日）、御調町の尾道ふれあいの里で第13回ひろしま「山の日」県民の集い尾道市会場に約150人が参加しました。「山の日」は、ひろしまの森づくり県民税を活用した事業で、里山に入るきっかけづくりを目的とし、尾道では今年で3回目の開催となりました。



▲山の日宣言

記録者：尾道市会場実行委員会 事務局

名水 岩倉の水を 目指すハイキング

<プログラム状況>

アップダウンが激しいコースだったため、6キロコースはかなり厳しいと予想していましたが、女性の積極的な参加が目立ち、体調が悪くなった人はいませんでした。子どもたちも名水岩倉の水を頭からかぶって大はしゃぎで楽しんでいました。

また、この日は暑く、熱中症が心配されましたが、コースの途中に副委員長の歴史ガイドやクイズもあり、単調にならないよう工夫されたプログラムであったため、気分転換をしながら歩くことができましたようでした。今年メインとなるプログラムでしたが、全員笑顔で完歩することができて、なによりでした。



▲岩倉の名水



▲名水で頭を冷やす子どもたち

山の手入れと樹木の教室

■参加人数：14人

<プログラムの状況>

人が植えた街路樹と自然に生えた森の木の違いなど専門的な樹木医の説明に参加者は聞き入っていました。



▲山の手入れ



▲樹木医の説明

森の中のネイチャーゲーム

＜プログラムの状況＞

かぶと虫の幼虫を探すゲームが大人気。子どもの食いつき方はいうまでもなく、木材チップで作ったプールの中を一緒に探す大人の目も輝いていました。



▲ネイチャーゲームを楽しむ



▲カブトムシの幼虫を探せ

クラフト教室

＜プログラムの状況＞

子どもたちは、使いなれない道具に大変興味を持っているようすで、一生懸命に作品を作っていました。また、同伴している大人は、それ以上に夢中になって創作の世界を堪能していました。



海を味わうランチタイム

＜プログラムの状況＞

山と海のつながりがテーマに取り入れられた地産地消弁当が参加者全員に配られました。お弁当の中身は、地元御調で栽培されたお米で作ったおにぎりや尾道で水揚げされたコウイカのおかずが組み合わせられたもので、原材料が尾道産だったためスローフード事業を活用することもできました。



「神楽門前湯治村」環境整備

■参加人数：274人

＜プログラムの状況＞

安芸高田市会場では、第18回グリーン倶楽部と共催で「神楽門前湯治村」及び高田インター付近の「北の関宿」周辺の環境整備作業を実施しました。

午前10時、神楽門前湯治村の駐車場で広島市や県外から参加者全員で開会式を行い、6班の班編成後、各部署に分かれて環境整備作業を実施しました。

その後、「桑田の庄」へ移動し桑田天使神楽団の神楽を觀賞しながら、桑田の山菜のてんぷらやヤマメの塩焼きや桑田米によるムスビなどの食事をされ、子どもたちは近くの川で桑田で養殖をしているヤマメのつかみどりで楽しみ解散しました。



▲環境整備作業



▲ヤマメのつかみどり▼



記録：安芸高田市会場実行委員会

実行委員会（全体）

■アドバイザー

森本 竹一
中越 信和
奥迫 輝昭
菅原 基晴
吉野 栄作
岡谷 義則
青木 暢之

元・吉和村村長
広島大学大学院 国際協力研究科 教授
広島県農林水産局 森林保全課 課長
広島県環境県民局 自然環境課 課長
(公社)広島県みどり推進機構 事務局長
中国新聞社 代表取締役社長
(株)中国放送 代表取締役社長

■会長

伊藤 利彦

愛する熱帯多雨林のために再生紙で名刺を作る会 幹事 元・広島市収入役

■副会長

内海 康仁
京才 昭
瀬川千代子
前垣 壽男
箕田 英紀
杵谷 正樹
福島 偉人
堀川 保幸
八谷 文策

光和物産(株) 代表取締役社長
(一社)広島県山岳連盟 会長
ひろしま緑づくりインフォメーションセンター 代表
西条・山と水の環境機構 理事長
三次市酒屋地区自治連合会 会長
(株)純正食品マルシマ 代表取締役社長
(株)有斐園 会長
中国木材(株) 代表取締役社長
(特非)森のバイオマス研究会 監事

■委員

赤木 茂
秋山 浩三
齋 陽

井上 年光
沖段 琢磨
奥野 悟
鎌田 博

光和物産(株) 取締役総務部長
広島県シェアリングネイチャー協会 事務局長
(公社)日本山岳会広島支部 自然環境委員会副委員長
阿品の森サポータークラブ 会長
安芸太田町産業振興課 課長
(公財)オイスカ広島県支部 事務局長
広島市森林公園
(第一ビルサービス森林公園 園長)

栗栖 俊生
河野 弥生
近藤 紘史
細工 実
櫻井 充弘
佐々木 靖
仙田 信吾
谷村 恭佐
野島 信隆

安芸太田町産業振興課
(特非)西中国山地自然史研究会
(特非)西中国山地自然史研究会 理事長
(一財)中央森林公園協会
(一財)もみのき森林公園協会 理事長
安芸高田市産業振興部 農林水産課 課長
(株)中国放送 常務取締役テレビ営業局長
(一財)中央森林公園協会 事務局長
(公財)法人日本山岳会広島支部自然環境委員会副委員長、(一社)広島県山岳連盟副会長

野本 利夫
林 高正
林 尚哉
平野 公穂
廣瀬 健
福永やす子
藤田 義弘
船本 昌義
正本 良忠
宮岡 泰久
山田 雅昭

(特非)ゆあーず「食」未来研究所 理事長
(特非)板橋さとやま倶楽部 理事長
中国木材株式会社 総務課 課長
中国新聞社営業事業本部事業出版センター
広島県緑化センター
(一社)広島県山岳連盟 普及部 副部長
(一財)中央森林公園協会
西条・山と水の環境機構 事務局
広島県緑化センター 相談役
サポート・トレッキング・グループ 会長
(一社)広島県山岳連盟 副会長・理事長

■監事

梅田 斉

(一財)もみのき森林公園協会 事務局長

■事務局長(副委員長兼任)

瀬川千代子 ひろしま緑づくりインフォメーションセンター 代表

■事務局(委員兼任)

企画調整 兼森志郎 (公社)日本山岳会広島支部 支部長
企画調整 畝崎辰登 西条・山と水の環境機構 事務局

各会場実行委員会

□安芸太田町会場実行委員会

■実行委員長

加計 正弘 日新林業株式会社 代表取締役社長

■副委員長

佐々木 徹 太田川森林組合 代表理事組合長

■事務局長

沖段 琢磨 安芸太田町産業振興課 課長

□東広島市会場実行委員会

■実行委員長

島 靖英 西条酒造協会 理事

■副委員長

浅野 敏久 広島大学大学院総合科学研究科 教授

■運営委員長

佐藤 高晴 広島大学大学院総合科学研究科 准教授

■運営副委員長

松浦 尚樹 賀茂地方森林組合 憩いの森公園施設長

■事務局長

船本昌義 西条・山と水の環境機構 事務局

□廿日市市会場実行委員会

■実行委員長

櫻井 充弘 (一財)もみのき森林公園協会 理事長

■副委員長

井上 年光 阿品の森サポータークラブ 会長

■事務局長

梅田 斉 (一財)もみのき森林公園協会 事務局長

□広島市（広島市森林公園）会場実行委員会

■実行委員長

鎌田 博 広島市森林公園 園長

■副委員長

富士澤 隆 広島市森林公園 副園長

■運営委員長

見勢井 誠 もりメイト倶楽部 Hiroshima 理事長

■運営副委員長

桑原 清二 フォレストクラブ森守

■事務局長

桑田 莊一郎 広島市森林公園

□広島市（広島県緑化センター）会場実行委員会

■実行委員長

正本 良忠 広島県緑化センター 管理責任者

■副委員長

山根 道廣 広島県緑化センター

■運営委員長

廣瀬 健 広島県グリーンサポート連絡会 会長

■運営副委員長

小野 寛 ふれあい湧

■事務局長

行正 高成 広島県緑化センター

□三原市会場実行委員会

- 実行委員長
福島 偉人 株式会社有斐園 会長
- 副委員長
山口 秀充 三原市経済部 部長
- 運営委員長
榘宗 正則 (特非)森のお猿さん
- 運営副委員長
森正 宏征 三原市経済部農林水産課 課長
中村 克也 三原市シルバー人材センター本郷支所長
- 事務局長
谷村 恭佐 (一財)中央森林公園協会 事務局長

□庄原市会場実行委員会

- 実行委員長
八谷 文策 (特非)森のバイオマス研究会 監事
- 副委員長
林 高正 (特非)板橋さとやま倶楽部 理事長
- 運営委員長
小笠原 六紘 (特非)板橋さとやま倶楽部
- 事務局長
表 康信 (特非)板橋さとやま倶楽部

□福山市会場実行委員会

- 実行委員長
内海 康仁 光和物産(株) 取締役社長
- 副委員長
赤木 茂 光和物産(株) 取締役総務部長
- 運営委員長
繁田 健司 光和物産株式会社
- 事務局長
赤木 茂 光和物産(株) 取締役総務部長

□三次市会場実行委員会

- 実行委員長
箕田 英紀 三次市酒屋地区自治連合会 会長
- 事務局長
奥川 利裕 三次市農政課 課長

□呉市会場実行委員会

- 実行委員長
堀川 保幸 中国木材(株) 代表取締役社長
- 副委員長
佐藤 一教 バブコック日立・エコークラブグリーン委員会理事
- 運営委員長
宮岡 泰久 サポート・トレッキング・グループ 会長
- 運営副委員長
福馬 不二男 サポート・トレッキング・グループ
- 事務局長
林 尚哉 中国木材株式会社 総務課長

□北広島町八幡高原会場実行委員会

- 実行委員長
近藤 紘史 (特非)西中国山地自然史研究会 理事長
- 事務局長
河野 弥生 (特非)西中国山地自然史研究会

□尾道市会場実行委員会

- 実行委員長
杵谷 正樹 株式会社純正食品マルシマ 代表取締役社長
- 副委員長
小川 健太郎 尾三地方森林組合 代表理事組合長
- 事務局長
朝倉 智佳史 尾道市産業部農林水産課 課長

□安芸高田市会場実行委員会

- 事務局長
清水 勝 安芸高田市産業振興部 部長

※以上、2014年6月1日時点での委員及び所属等を記載しております。
たくさんの方々に協力していただき行事を行なうことができました。
心より感謝申し上げます。

ひろしま「山の日」県民の集いの概要

1. 「山の日」のきっかけ

森林ボランティアに関わる人たちが全国から集まり、第7回森林と市民を結ぶ全国の集い（時期：2002年2月9日～11日 開催場所：広島県東広島市とその周辺 主催：第7回森林と市民を結ぶ県民の集い実行委員会他 総参加者：2,294人）が開催されました。その初日のシンポジウムにおいて、パネリストの1人から「山の日」をつくろうとの提案がされました。

提案を受け分科会等での議論等を経て、集いの締めくくりに、私たちからのメッセージとし「6月の第一日曜日を山の日として、その日は山に関わろう」というメッセージを発信しました。

2. ひろしま「山の日」県民の集いの歩み

山の大切さをできるだけ多くの人たちに知っていただきたい。そのきっかけづくりとしてひろしま「山の日」県民の集いを広島県内各地の会場で開催しています。第1回～4回までは、広島県内1ヶ所の会場で開催していました。第5回以降、・メイン会場と・サテライト会場方式として県内数ヶ所で同時開催、あわせて1万人が参加する行事になっています。

回数	日時	場所	参加者数	主催
1	2002年6月1日（土） ・2日（日）	東広島市	約1,500人	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会
2	2003年6月7日（土） ・8日（日）	廿日市市	約3,000人	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会
3	2004年6月5日（土） ・6日（日）	広島市	約2,400人	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会
4	2005年10月15日（土） ・16日（日）	三原市	約5,000人	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、平成17年度広島県植樹祭実行委員会
5	2006年10月22日（日） ※全国育樹祭と連携	○メイン会場：庄原市 ○サテライト会場：東広島市、廿日市市、広島市（2）、三原市	約11,700人	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、中国新聞社
6	2007年10月20日（土） ・21日（日）	○メイン会場：福山市 ○サテライト会場：東広島市、廿日市市、広島市（2）、三原市、庄原市	約10,110人	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、中国新聞社
7	2008年10月18日（土） ・19日（日）	○メイン会場：三次市 ○サテライト会場：東広島市、廿日市市、広島市、三原市、庄原市、福山市	約10,000人	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、中国新聞社

8	2009年6月6日(土) ・7日(日)	○メイン会場：呉市 ○サテライト会場：東広島市、廿日市市、広島市(2)、三原市、庄原市、福山市、三次市	約7,000人	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、中国新聞社、中国放送
9	2010年6月5日(土) ・6日(日)	○メイン会場：北広島町 ○サテライト会場：東広島市、廿日市市、広島市(2)、三原市、庄原市、福山市、三次市、呉市	約8,600人	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、中国新聞社、中国放送
10	2011年6月4日(土) ・5日(日) ※第10回記念行事	東広島市、廿日市市、広島市(2)、三原市、庄原市、福山市、三次市、呉市、北広島町	約11,600人	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、中国新聞社、中国放送
11	2012年6月2日(土) ・3日(日)	○メイン会場：尾道市 ○サテライト会場：東広島市、廿日市市、広島市(2)、三原市、庄原市、福山市、三次市、呉市、北広島町	約7,000人 ※朝、雨	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、中国新聞社、中国放送
12	2013年6月1日(土) ・2日	○メイン会場：安芸高田市 ○サテライト会場：東広島市、廿日市市、広島市(2)、三原市、庄原市、福山市、三次市、呉市、北広島町、尾道市	約3,200人 ※終日、雨天	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、中国新聞社、中国放送
13	2014年5月31日(土) ・6月1日(日)	○メイン会場：安芸太田町 ○サテライト会場：東広島市、廿日市市、広島市(2)、三原市、庄原市、福山市、三次市、呉市、北広島町、尾道市、安芸高田市	約9,000人	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会、中国新聞社、中国放送

第 13 回ひろしま「山の日」県民の集いの記録

- 発行日 2014 年 10 月 30 日
 - 発行・編集 ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会
 - 事務局 〒730-0041 広島市中区小町 2-28-703
T E L 082-909-7662 F A X 082-248-3586
e-mail:info@yamanohi.com
-



- 山の日ロゴ: 山と人との調和をモチーフにデザイン開発。
基本カラーはエコグリーン。
デザインは木原実行さん。

 一般財団法人
セブン-イレブン記念財団
(この活動は、2014年度セブン-イレブン記念財団の助成を受けています。)



(この行事は、「ひろしまの森づくり県民税」を活用して開催しています。)

ひろしまの森づくりキャラクター
モーリー

